

糸

車

編集 山形村ふるさと伝承館



十王像

このものの頃、何か悪いことをすると、決まっておじいちゃん、おばあちゃんに「エンマ様に舌を引っこ抜かれらまうぞ。」なんて言われた。これは江戸時代中頃から盛んであった十王信仰に由来がある。

人は死んだ後、いわゆる「あの世」へ行くと、エンマ王を初めとした十の王に裁かれる。生前の行いが悪いと判断が下つたら、地獄へ落とされると信仰され、判決が有利になるようになると王の像を作り祀つたのである。

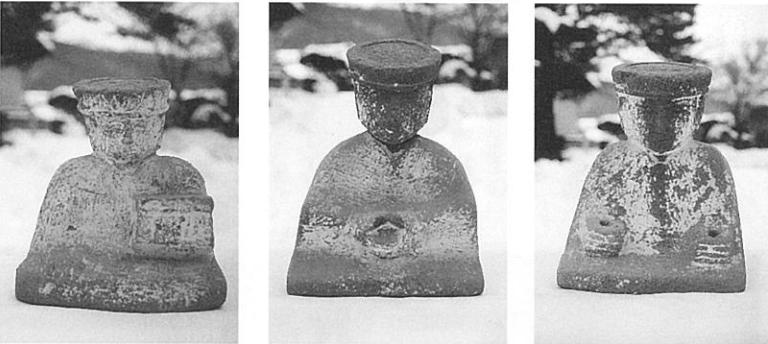
今ではその信仰も断片的になってしまったが、当時の信仰心を伝える十王像が山形村にもある。

十五信仰

十王

初七日	秦広王(しんこうおう)
二七日	初江王(しょこうおう)
三七日	宋帝王(そうていおう)
四七日	五官王(ごかんおう)
五七日	閻魔王(えんまおう)
六七日	変生王(へんじょうおう)
七七日	太山王(たいざんおう)
百ヶ日	平等王(びょうどうおう)
一周忌	都市王(としおう)
三年忌	五道転輪王

(ごどうてんりんおう)



閻魔王 五官王 宋帝王 初江王 秦広王

人は死後、生前に犯した罪によつて冥土で十人の王に裁かれるという。その王とは、秦広王、初江王、宋帝王、五官王、閻魔王、変生王、太山王、平等王、都市王、五道転輪王の十人で、総称して十王と言う。

亡者(死者)が冥土に着くと、忌日ごとに十の王庭に入つて娑婆での罪が裁かれるのである。

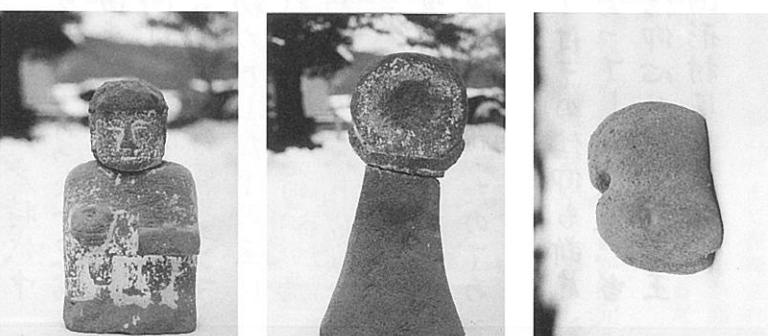
(下の表を参照)

この十王の裁きによつて来世の進むべき道が、「地獄道」、「修羅道」、「餓鬼道」、「畜生道」、「人間界」、「天界定」の六道のうちどれかに決められるという。

これらの王庭には、王の命令によつて働く獄卒(ごくそつ)がいる。また閻魔王庭には、「淨玻璃の鏡(じよ

堂の中の地蔵様の裏面に、
大立山宗福寺 本願春廊
と刻まれているのを見ると、この同期に十王像が刻まれたと思われる。宗福寺の山号を大立山といつているが定かでない。研究の余地がある。

奪衣婆 書記 獄卒 淨玻璃の鏡 秤のおもり



—宗福寺の十王様—



五道転輪王



都市王



平等王



太山王



変生王

途の川のほとりには、「奪衣婆(だつえば)」がいて、亡者の生前から衣類を剥ぎ取り、それを懸衣爺(けんいじや)に渡す。爺はそれを樹に投げ掛け、この衣類の掛かった高さによって罪の重さをはかるのである。また罪の重さをはかる「秤(はかり)」もある。そして六道の別れめには、「お地蔵様」がいて親切にしてくださる。お地蔵様しか頼れる方がないのである。

三途の川の向こうは、お亡者にたいして絶対権限をもつ十王は、恐るべき存在であり、生前に善行を積み、十王の供養を行つたものは罪を軽くしてもらえるという。この十王信仰は、中国からの道教と仏教が合体して、鎌倉時代に思想的に充実し、江戸時代中期に最も盛んであった。

さて山形村には、この十王をまつる十王堂がある。両寺とも十王の設立年代は定かでないが、宗福寺にある十王

が、その跡地にて

きた葬儀用具倉庫へ移され、人知れず隅に追いやられていた。

ところが昭和四六年、当時の山形小学校長であった太田義一先生と、有志の先生方、児童達で組織した「石造文化財調査クラブ」がこれを発見し、ようやく陽の目を見ることになったのである。以後約十年間は、今は取り壊された村民会館内に置かれていたが、昭和五七年、宗福寺境内にお堂が新設され、お迎えを受けたのである。

▲地蔵様背面記年銘の拓本



人頭杖



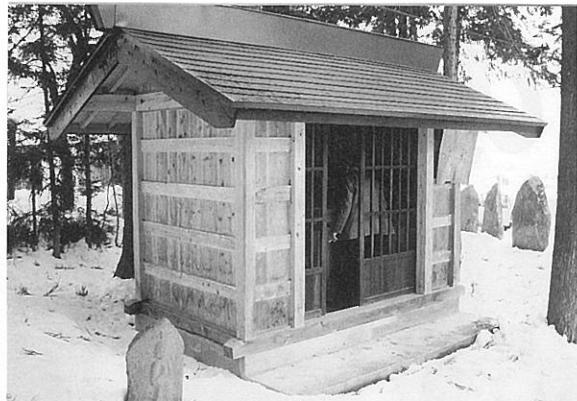
地蔵様



宝積寺の十王像

宝積寺参道の途中右手に、十王堂がある。こちらの十王堂には、十王の像は存在するが、淨玻璃の鏡、書記等の像がなく、残念ながらすべてが揃っているわけではない。十王の像は、作りや表情、大きさが宗福寺のものに酷似しており、同じ彫り手によつたものではないかという推察も浮かぶ。

また堂内には、かなり風化してしまっているものの、石造ではなく木造の十王らしき像も並置されている。



三夜塚遺跡出土遺物紹介

昨年の夏に行われた発掘調査で出土した遺物の中から、目をひく遺物を紹介します。

左の写真は、「釣手付深鉢」と呼ばれる土器ですが、このタイプの土器は発見例が極少で、通常の日常品とは違う特別な時、まつりに使われたと考えられます。今迄に県内で数点の発見例がありますが、完全に形が残っているものは限られ、片手の指で足りる数しかありません。大変貴少な資料といえるでしょう。

下の写真は土偶の顔面部分です。

胴の部分は発見されませんでしたが、



▲ 釣手付深鉢



▲ 土偶

よく見ると、鼻の穴まで表現されているのが分かります。なかなか面白い表情をしており、眺めているだけで何か心和む感をうけます。

その他にも多くの土器が復元されました。整理作業が終了しましたら、展示を行う予定です。